

病床機能再編支援事業 事業計画書

開設者名	日本赤十字社																
施設名	大津赤十字病院									構想区域		大津					
施設所在地	滋賀県大津市長等1丁目1-35																
再編概要	(事業種別)		病床機能再編支援事業（単独支援給付金支給事業）														
	(再編計画の概要)		R2年度：高度急性期病床52床減少、急性期病床14床減少（2人部屋⇒個室）（小児病棟内に守山養護学校移設） R7年度：高度急性期病床15床減少、急性期病床48床減少（休止病床）（3階西病棟）														
	(病床機能再編の目的と地域医療構想との関係)		地域医療構想において、大津圏域では高度急性期病床が過剰、急性期病床が不足している状況であるが、重篤患者や全身麻酔による手術等を要する重症の急性期患者においては、高度急性期、急性期の両機能に入院している。高度急性期病床と急性期病床を合わせて考えると過剰であり、医療資源の適正化を図る必要がある。今回過剰となる高度急性期病床及び急性期病床を減少させることで、圏域における医療資源の適正化を図る。														
	(地域医療への影響)		大津圏域においては、急性期病床を有する病院が6病院あり、令和5年度病床機能報告では半数の病棟が病床稼働率が80%を切っている。また、機能分化の推進により急性期病院における在院日数は大幅に短縮している傾向にあり、今後もその流れは不変と考える。よって、今回の減少によって地域医療の機能には支障をきたさないものとする。														
	(再編後の活用方策)		R2年度減少した病床については、患者ニーズや感染防止の観点から個室として活用している。 R7年度減少予定の病床については、急性期病院に必要な機能（病床以外の機能）として活用できるように計画を今後すすめていく。														
	(標榜診療科)		内科、血液内科、リウマチ科、糖尿病・内分泌内科、神経精神科、脳神経内科（神経内科）、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、腎臓内科、緩和ケア内科、小児科、新生児内科、外科、消化器外科、乳腺外科、肝臓外科、膵臓外科、胆のう外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、小児外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、頭頸部外科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、救急科、歯科口腔外科、病理診断科														
	(1日あたりの患者数〈稼働率〉)		※令和6年4月～11月 入院患者数 527人／日 〈稼働率 88%〉 外来患者数 1430人／日														
	(職員数)		医師 237人 看護職員 814人														
	(再編計画)		＜再編計画期間※ ¹ ＞ 令和 2 年度 ～ 令和 7 年度 備考：休棟の4床については、再編後、高度急性期機能として使用予定であるため、対象3区分の実削減病床数は129床となる。 ＜再編前※ ² ＞ 731床 ＜再編後＞ 602床														
	＜再編計画＞																
		再編前				年度別削減病床数内訳（床）						再編後			削減病床数		
						R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度					
高度急性期機能		16	(病棟)	583	(床)	52					19		15	(病棟)	472	(床)	71
急性期機能		3	(病棟)	148	(床)	14					48		3	(病棟)	130	(床)	62
回復期機能			(病棟)		(床)									(病棟)		(床)	0
慢性期機能			(病棟)		(床)									(病棟)		(床)	0
休棟			(病棟)	53	(床)	46					3			(病棟)		(床)	49
合計		19	(病棟)	784	(床)	112	0	0	0	0	70	0	18	(病棟)	602	(床)	182
うち対象3区分		19	(病棟)	731	(床)	66	0	0	0	0	67	0	18	(病棟)	602	(床)	133

※1 再編計画期間は、令和2年4月1日から令和9年3月31日までのものに限定する。
※2 平成30年度病床機能報告時または令和2年4月1日時点の対象3区分合計のいずれか少ない方を再編前病床数とする。